

第 114 回金属プレス加工技術研究会

「高強度鋼の冷間成形加工とその型技術」

SDGs あるいは低カーボン社会に向けて、軽量化・省エネルギー化が喫緊の課題となっている今日、自動車用鋼板として広く利用されている高張力鋼板・超高張力鋼板のプレス成形技術を注視し、また高強度化するステンレス鋼にも留意して、ハイテンに代表される高強度鋼の冷間プレス成形技術および型技術を俯瞰する。

主 催：(一社) 日本金属プレス工業協会

協 賛：鋳型ロール会、(一社) 型技術協会、(一財) 素形材センター、(一社) 日本金型工業会

日本木型工業会、日本金属継手協会、(一社) 日本金属熱処理工業会、(一社) 日本工業炉協会

(一社) 日本塑性加工学会、(一社) 日本ダイカスト協会、(一社) 日本鍛圧機械工業会

(一社) 日本鍛造協会、(一社) 日本鋳造協会、(公社) 日本鋳造工学会、(一社) 日本鋳鍛鋼会

(一社) 日本熱処理技術協会、(一社) 日本バルブ工業会、日本粉末冶金工業会

(一社) 日本マグネシウム協会、(一社) 粉体粉末冶金協会

【開催日時】 2025 年 3 月 4 日 (火) 13:00~17:00

【開催方法】 オンライン (zoom)

【定 員】 100 名

【司 会】 日本金属プレス工業協会 技術・教育委員 相澤 龍彦氏・大貫啓人氏

【参加費】 当協会会員および協賛団体会員 8,800 円 (税込み)
一般 17,600 円 (税込み)

【申込み URL】

<https://forms.gle/8ktzN8NSZbDqpY299>

QR コード ⇒



※申し込み締め切り：2/25 (火)

◆問い合わせ先

(一社) 日本金属プレス工業協会
事務局 鹿野

Mail : kano@nikkin.or.jp

TEL : 03-3433-3730

【プログラム】

・ 開会の辞 13:00～13:10

・ 講演 1 「超高強度鋼板の冷間加工技術の開発」 13:10～14:10

日本製鉄株式会社・名古屋製鉄所 田中 康治氏

カーボンニュートラルの実現に向け、自動車の軽量化に寄与する超高強度鋼板の開発とその適用が進んでいる。これらの超高強度鋼板を加工するために、成形限界が高い変形形態である「面内せん断変形」の活用という新たなコンセプトの冷間プレス技術が開発されている。本講演では、これら冷間プレス技術と量産適用のための関連技術を紹介する。

・ 講演 2 「超高張力鋼板のピアス加工における金型損傷の特徴と損傷低減への取組み」 14:10～14:50

株式会社本田技術研究所 材料研究センター 興津 貴隆氏

最近、ホットスタンプの代替として超高張力鋼板の冷間プレスによる適用が進みつつある。本講演では、1.5GPa 級鋼板のピアス加工におけるパンチ損傷の特徴と、パンチ材料、コーティング、下地窒化処理等が損傷に及ぼす影響について紹介し、損傷低減のための方向性を議論する。

休憩 14:50～15:00

・ 講演 3 「過飽和固溶化処理による高強度チタン材・ステンレス鋼のドライ冷間型技術」 15:00～15:40

表面機能デザイン研究所 相澤 龍彦

過飽和炭素固溶化処理を施した工具鋼型を用いたチタン材の冷間鍛造ならびに過飽和窒素固溶化処理を施した超合金型を用いた微細粒 SUS316 材の冷間加工を事例として、ドライ冷間加工技術のこれまでとこれからのについて議論する。

・ 講演 4 「多品種少量ハイテン品向け成形型材の開発」 15:40～16:20

名古屋工業大学 北村 憲彦

980MPa 級までのハイテン材製品について、試作や多品種少量（200～1000 枚程度）の生産に対応できる短納期成形型の開発事例を紹介する。

休憩 16:20～16:30

・ 総合討論 「ハイテンの冷間加工に向けた課題と解決法」 16:30～16:55

表面処理デザイン研究所 合同会社 所長 相澤 龍彦氏
株式会社大貫工業所 代表取締役社長 大貫 啓人氏

・ 閉会の辞 16:55～17:00